

東日本大震災とわたし

作成者 T. A1

1 地震当日の私の体験

中学校の卒業式を前日に控え、スクールバスで家に帰っているときだった。バスが動いていたので一番始めにきた大きな揺れには気が付かなかった。いつものように家に帰ると、祖母が地震があったと驚いていた。そのときにはもうテレビも電気もつかない状態だった。そのあと何度も強い余震が続いて、窓ガラスがガタガタと音をたてて揺れ、その度に家の外に出た。

なんとか余震も落ち着いたが、停電になったため何もすることができない。夜は懐中電灯やキャンプのときに使うランプでなんとか明かりを確保した。夕飯もいつものように作って食べることができなかった。玄関には最低限のものを準備して、逃げられるようにした。地域局の町内放送からは、卒業式の延期が知らされ、また停電の回復の見通しが立たないこともわかった。当然、お風呂も沸かせないため入ることができない。家族みんなでラジオを聴きながら、不安でいっぱい夜を過ごした。

2 地震後3ヶ月間のわたしの動き

このような大きな地震を体験するのは初めてだった。今回の地震を通して、いざこのようなことが起こったときのための準備が十分にできていないと感じた。懐中電灯やラジオ、非常食の確認を普段からする必要があると思い、準備をするようにした。

また、わたしたちのことだけに限らず、被災した人たちのために、節電に心がけて生活したり、募金にも参加したりした。

被災地の状況を知ることが大事だと思ったので、毎日、新聞やテレビのニュースで情報を得るようにもした。

3 今、わたしにできること

地震から5か月以上たった今、わたしは地震前と変わらない生活を送っている。被災地でも復興作業が進み、被災者も徐々に生活を取り戻しつつあるが、十分な生活はまだできていない。いつも、被災地で頑張っている生活している人がいる

ということを忘れないで毎日を過ごすことが大切だと思う。

また、節電など自分にできることは積極的に行っていきたい。

1 my experience

We had the huge earthquake when I was going home. There were aftershocks many times after I went back to home.

The electric current was cut off by the earthquake.

2 My action in these 3 months

I saved electricity and cooperated to the contribution campaign. Also I read newspaper every day.

3 What can I do?

I want to save electricity. Also I want to cooperate to further contribution campaign.